

特別名勝 岡山後楽園 | 岡山城

岡山。
美しい日本が、
ここに。



の、
見、
旅、
岡山

戦国の名城
泰平の庭園

豊臣政権で五大老となつた備前宰相・宇喜多秀家が築き、小早川、池田両氏に引き継がれた近世城郭の先駆けとなる名城。そして維新の世まで岡山のを治め続けた備前池田家に相応しい我が国屈指の大名庭園。豪壮と美麗、岡山城と岡山後楽園。さあ、歴史浪漫の空間へ。

岡山城、岡山後楽園年間行事カレンダー

春	夏	秋	冬
<p>4月下旬～5月上旬 夜間特別開園 春の鳥城灯源郷</p> <p>5月上旬 鳥城おしろあそび</p>	<p>※令和3年6月以降、天守閣は休館となり、既存イベントは中止となりますが、休館期間中もリニューアルオープンに向けたイベントやPRを実施する予定としています。ご期待ください。</p>	<p>旧暦8月15日 名月観賞会</p> <p>10月下旬～11月中旬 岡山県後楽園菊花大会</p> <p>10月下旬 延養亭特別公開</p> <p>11月3日 後楽能</p> <p>11月下旬 夜間特別開園 秋の幻想庭園</p> <p>9月～2月 タンチョウの園内散策(各月2回程度)</p>	<p>1月1日～3日 初春祭</p> <p>2月上旬 芝焼き</p>

開催行事は変更になることがあります。
また、イベント等の開催により、観覧時間または開園時間を変更することがあります。

インフォメーション

岡山城天守閣 岡山市北区丸の内2-3-1 TEL086-225-2096

◎入場料金 大人320円 小人130円
(15歳以上) (小・中学生)

◎観覧時間 入場は17時まで 9:00～17:30 (12月29日～31日は閉館)

岡山後楽園 岡山市北区後楽園1-5 TEL086-272-1148

◎入園料金 大人410円 シニア140円 高校生以下無料
(15～65歳未満) (65歳以上) (変更することがあります)

◎開園時間 3月20日～9月30日/7:30～18:00 10月1日～3月19日/8:00～17:00
入園は開園時間の15分前まで

お得な共通券	岡山後楽園 + 岡山城	岡山後楽園 + 岡山城 + 林原美術館	岡山後楽園 + 県立博物館
大人	580円(15歳以上)	980円(15歳以上)	520円(15歳以上)
小人	—	—	—

休館日、特別展開催の場合(準備期間含む)は発売を中止します。

岡山後楽園 年間パスポート 大人 2,080円 65歳以上830円

アクセス

岡山城 ◎岡山ICから車で約20分 ◎JR岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル9番・10番乗場→「県庁前」下車5分 ◎JR岡山駅から徒歩25分 ◎JR岡山駅前から路面電車「東山行き」→電停「城下(岡山・岡山後楽園口)」下車10分

岡山後楽園 ◎岡山ICから車で約20分 ◎JR岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル1番乗場→「後楽園前/岡山後楽園」下車すぐ 直通バス有 ◎JR岡山駅から徒歩25分 ◎JR岡山駅前から路面電車「東山行き」→電停「城下(岡山・岡山後楽園口)」下車10分

岡山後楽園 駐車場料金	普通車/1時間毎:100円	バス/1日1回:620円	※イベント開催時は混雑することがあります。なるべく公共交通機関を利用ください。
鳥城公園 駐車場料金	最初の1時間300円(以降30分毎100円) 大型1台につき830円/回 お問い合わせ先:鳥城公園駐車場事務所(☎086-226-4809)		

※記載の料金は2021年3月1日現在



岡山城

川面に映える漆黒の城
四百年の歴史を物語る石垣

戦国の名城

天下人となった豊臣秀吉に身内並みに厚遇されて大大名となつた宇喜多秀家が、秀吉の指導を受けて築城し、慶長二年(一五九七)に完成。

西を警戒した城構えのため、東面には防御の堀がない。代わりに旭川を城の東背後を流れるように改修し、天然の外堀として活用している。天守の壁に黒漆塗りの下見板を取付けるこの時代の特徴から外観が黒く「鳥城」とも呼ばれる。天守台が不規則五角形。その上に長方形、正方形と平面を變形させながら積み重ねているため、天守閣は方角によって異なる姿を見せる。

秀家は関ヶ原合戦で西軍の主力として参戦したが敗走。敗軍の将として流配先の八丈島で城主よりも長い期間の余生を過ごした。秀家に代わって城主となった小早川秀秋は城域を拡張して新たに外堀を設けるが、在城二年で夭折。その後は城主として池田家が入り、表書院や月見櫓を整備し、幕藩体制の下で岡山藩の治世の府となった。



兼六園、偕楽園とならび
日本三名園と讃えられる岡山後楽園
三百年の伝統が息づく

特別名勝 岡山後楽園

泰平の庭園

城主が池田家に代わり、忠継・忠雄と続いた後、寛永九年(一六三二)に池田光政が鳥取から国替えで入国し、以後光政の子孫が岡山藩を継いだ。

二代綱政は城の背後に政務の合間を過ごす広大な庭園をつくった。築庭当時、園中央に広がる芝生は現在の四分の一程度で田畑が中心であった。また、当時流行した桜・楓に加え松を植えて色彩豊かな林を配し、四季の移り変わりを心ゆくまで楽しんだ。

三代綱政は園中央に唯心山を築き、水路を改変し、座敷から眺める庭園を歩いても楽しい庭園にした。五代治政は、儉約のため人手のかかる田畑をやめて芝生にするなど世相を反映した改変に着手した。

こうして幕末までに今に伝わる景色が概ね整った。代々の藩主が眺め、くつろいできた庭園は、時として藩主のお客様をはじめ領民にも公開された。

明治四年(一八七二)、後楽園と改称され、十七年に池田家から岡山県に譲られて一般公開が始まった。昭和九年(一九三四)の水害、二十年の戦災を乗り越え、多くの人が愛する庭園となっている。